

医療法人豊田会

刈谷豊田総合病院 広報誌

ご自由にお取りください

保健

医療

福祉

分野で社会に貢献します

医心伝心

[いしんでんしん]

3
March

No.155

2018.3.1

開院55周年記念特集号

開院55周年特別企画
「KTGH羅針盤」

～60周年に向けて～

P.03 がん診療 P.05 地域連携

P.04 救急医療
医療安全 P.06 予防医療
職員教育



INDEX

P.01 メッセージ

P.02 55年の歩み

P.03 開院55周年特別企画「KTGH羅針盤」

P.07 特集「万全の体制で臨む、災害医療」

P.11 Information

P.14 広報誌「医心伝心」の歩み

P.15 旬を食す

開院55周年を 迎えて



刈谷豊田総合病院 病院長
井本 正巳

刈谷豊田総合病院は本年3月1日に開院55周年を迎えました。この55年間、当院は「保健・医療・福祉分野で社会に貢献します」の理念に基づいてこの地域に必要な機能を模索しながら活動し、発展・拡充してまいりました。

当院の病床は開院時の3倍以上に増え、がん診療拠点病院や救命救急センター・災害拠点病院、地域周産期母子医療センターなどの認定、地域医療支援病院の承認を受け、地域における中核病院として救急医療や専門的な医療を中心に診療する病院に成長しました。豊田会としては、急性期医療の後も継続的に治療が必要な患者さんを受け入れる病院として東分院・高浜分院の2つの慢性期病院を開設し、地域の皆さまを支援しています。

今後も少子高齢化が進むと予測されていますが、少子高齢化社会では収入を得る人口が減って医療を必要とする人口が増加します。そうした時代にあっても国民が健康に暮らすためには、効率の良い医療が欠かせません。

国は病院の機能を明確にし、患者さんの病状・病態に応じて治療にあたる病院を決め

るという仕組み作りを急いでいます。さらに病院を早期に退院し、介護サービスを受けながら在宅で医療が受けられるシステム導入の必要性を強調しています。豊田会では以前から病院の機能分担を行ってきましたが、これからはこの地域の全ての病院や介護施設などが協力して必要な医療・介護サービスが提供できるようにすることが求められます。

政府は「人生100年時代」の到来を予測し、準備を始めています。今の子どもたちの2人に1人は100歳まで生きるといふ時代です。人生100年時代では、働き方も医療も全てが変わらざるを得ないと考えます。認知症にならず健康的な生活が送れて、高齢者が元気にいつまでも働けるのであれば理想的ですね。夢のような話ですが、医学の進歩はその理想を現実にすると思っていて、今後も邁進してまいります。

[豊田会理念] 保健・医療・福祉分野で社会に貢献します

[豊田会方針] 温かい思いをこめた、質の高い保健・医療・福祉サービスを提供します

[患者の権利と責務] 私たちは患者の皆さまの権利を尊重し、安全で質の高い医療の提供に努めます。そのためには、患者の皆さまの主体的な参加が不可欠です。以下に掲げる事項は、患者さんと医療従事者が守るべき事項です。

- 【患者の権利】
1. 安心して最善の医療を公平に受ける権利を尊重します。
 2. 医療機関を自由に選択し、他の医師の意見を求める権利を尊重します。
 3. 治療に関する情報を知り、説明を受ける権利を尊重します。
 4. 治療に関する方法を自己の意思で決定する権利を尊重します。
 5. 個人の情報が保護される権利を尊重します。

- 【患者の責務】
1. 自ら選んだ治療方針に沿って医療に参加する責任があります。ご自身の健康に関する情報を医療者にできるだけ正確に伝え、また、同意された医療上の指示に従ってください。
 2. 病院の規則を守り、犯罪行為、迷惑行為を行わないなどの社会的ルールを守る責任があります。
 3. 検査や治療のために、必要な医療費を負担する責任があります。

55年の歩み

昭和

- 37年 9月 医療法人豊田会設立
- 38年 3月 刈谷豊田病院開院(病床数200床、診療科10科目)
- 4月 豊田准看護婦学院(のちの刈谷准看護高等専修学校)開校
- 41年 9月 総合病院承認
- 47年 8月 院内保育園開設
- 55年 4月 広域第二次救急病院に指定
- 58年 1月 刈谷総合病院に名称変更
- 59年 1月 コンピューター導入(医事システム稼働)



初代・三代 理事長
故 石田 退三
初代在任期間 3年4カ月
昭和37年9月～昭和41年1月
三代在任期間 11年2カ月
昭和43年5月～昭和54年7月



初代 病院長
故 古居 亮治郎
在任期間 3年10カ月
昭和38年 3月 就任
昭和41年12月 退任



二代 理事長
故 大島 鈴松
在任期間 2年4カ月
昭和41年 1月 就任
昭和43年 5月 退任



二代 病院長
故 大野 道夫
在任期間 12年10カ月
昭和41年12月 就任
昭和54年 9月 退任

平成

- 元年12月 5棟・6棟増設
- 2年 1月 健診センター開設
- 3年 4月 ICU開設
- 4年 4月 刈谷看護専門学校開校
- 5年 4月 臨床研修病院に指定
- 7年10月 刈谷訪問看護ステーション開設
- 8年 4月 刈谷在宅介護支援センター開設
- 10年 6月 日本医療機能評価機構認定取得
- 11年 1月 老人保健施設ハビリスーツ木開設(入所定員100人)
- 8月 ISO9001 認証取得(健診センター)
- 12年 2月 ISO14001 認証取得
- 4月 刈谷総合病院東分院開院(療養病床100床)
- 13年 4月 歯科医師臨床研修施設に指定
- 14年 5月 刈谷総合病院東分院透析センター開設
- 15年 2月 新診療棟開棟
- 3月 刈谷准看護高等専修学校閉校
- 9月 臨床研修指定病院に指定
- 18年 1月 電子カルテシステム稼働
- 2月 ISO9001 認証取得(病院全体)
- 4月 刈谷豊田総合病院に名称変更
- 6月 DPC病院請求開始
- 19年 3月 災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定
- 11月 新1棟開棟
- 12月 ISO14001 認証取得/登録から自己宣言へ
- 20年 3月 ISO9001 認証拡大(豊田会全体)
- 刈谷看護専門学校閉校
- 5月 刈谷療養通所介護事業所開設
- 21年 4月 刈谷豊田総合病院高浜分院開院(療養病床104床)
- 22年 4月 刈谷中部地域包括支援センター開設
- 刈谷居宅介護支援事業所開設
- 6月 愛知県がん診療拠点病院に指定
- 11月 ISO15189 認定取得(臨床検査室)
- 23年 2月 NPO法人卒後臨床研修評価機構認定取得
- 中央棟開棟
- 内視鏡センター開設
- 3月 愛知DMAT指定医療機関に指定
- 4月 救命救急センター・災害拠点病院(地域中核災害医療センター)に指定
- 24年 4月 DPC病院II群の指定を受ける
- 10月 地域医療ネットワークシステム(KTメディネット)稼働
- 25年 3月 ISO14001 認証取得/自己宣言を終了
- 4月 第二種感染症指定医療機関に指定(感染症病床6床)
- 26年10月 新2棟開棟
- 27年12月 地域周産期母子医療センターに認定
- 28年 9月 地域医療支援病院の承認を受ける
- 刈谷療養通所介護事業所閉所
- 10月 化学療法センター開設



四代 理事長
故 白井 武明
在任期間 14年11カ月
昭和54年 7月 就任
平成 6年 5月 退任



三代 病院長
故 小谷 彦藏
在任期間 13年9カ月
昭和54年10月 就任
平成 5年 6月 退任



五代 理事長
故 豊田 芳年
在任期間 19年6カ月
平成 6年 5月 就任
平成25年11月 退任



四代 病院長
故 鈴木 貞輔
在任期間 3年10カ月
平成 5年 7月 就任
平成 9年 4月 退任



六代 理事長
豊田 鐵郎
現職
平成25年11月 就任



五代 病院長
故 川島 吉良
在任期間 8カ月
平成 9年 5月 就任
平成 9年12月 退任



昭和38年3月 刈谷豊田病院開院



平成15年2月 新診療棟開棟



平成19年11月 新1棟開棟



平成26年10月 新2棟開棟



六代 病院長
栗屋 忍
在任期間 4年
平成10年 6月 就任
平成14年 5月 退任



七代 病院長
故 小林 正
在任期間 2カ月
平成14年 6月 就任
平成14年 7月 退任



八代 病院長
鈴木 克昌
在任期間 9年4カ月
平成14年12月 就任
平成24年 3月 退任



九代 病院長
井本 正巳
現職
平成24年 4月 就任

開院55周年特別企画

KTGH羅針盤

～60周年に向けて～

がん診療

がん診療の最前線をゆく

がん総合診療センター長 吉田 憲生

■当院の特長

愛知県のがん診療拠点病院として質の高い医療を提供できるように、最新のがん治療技術の導入に努めています。また、2棟開棟に伴い、自分らしく過ごせる空間をコンセプトに「緩和ケア病棟」を開設しました。多職種が密に連携しながら、がん患者・家族の皆さまのからだと心のサポートに最善を尽くしています。

■最近の取り組み

平成28年10月には、がん患者さんが通院することで「生活の質」を保ちながら有効かつ安全にがん薬物療法を受けられるよう、従来の機能を拡充した化学療法センターを開設しました。併せて、がん情報



緩和ケア病棟クリスマス会



屋上庭園

ラウンジを設置し、がん患者・家族の皆さまへ積極的に情報提供を行いながら療養環境の向上をはかっています。

新しい化学療法センターには、抗がん薬調製支援装置「DARWIN™-Chemo」を臨床現場では全国で初めて導入しました。正確な調製により、患者さんに安全な抗がん薬を投与できるだけでなく、調製時における医療従事者への抗がん薬曝露を低減することができます。

また、悪性脳腫瘍の治療には光線力学的療法（PDT）を愛知県で初導入し、先進医療「抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査」※の承認を愛知県で2番目に受けるなど、高度な医療を提供できるよう努めています。

※「抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査」とは、抗がん剤に対する感受性を調べ、患者さんに合った抗がん剤を使用できるようにするための検査です。



抗がん薬調製支援装置



化学療法センター

「断らない救急」で地域を支える

救命救急センター長 三浦 政直

■ 当院の特長

救命救急センター（三次救急医療機関）として「断らない救急」をスローガンに掲げ、24時間対応型救命救急体制を整えております。全国的にも珍しい、麻酔科を司令塔とした「全診療科参加型」で日々奮闘しています。

当院の年間救急受診者数は3万5千人を超え、救急車搬送数は約1万人と県内でも有数の実績を誇ります。また、救急応需不能率（いわゆる「お断り率」）は0.8%程度と非常に低く、この地域の救命救急の最後の受け皿としての役割を果たしています。



ドクターカー



救急外来の処置室

■ 救急医療の充実のために

平成26年1月より、救急の現場に医師を派遣する「ドクターカー」の運用を開始

しました。医師・看護師・救急救命士で構成される医療チームが現場で直ちに初期治療を開始することで、地域の救命率向上に貢献できるよう取り組んでいます。

また、平成29年度からは時間外・休日の救急外来にて診療にあたる医師数を増員しました。1・2年目の研修医4名に加え、救急外来医として3・4年目の医師が1名常駐し、必要に応じて各診療科の上級医が対応する仕組みになっています。救急外来を受診した患者さんは優先的に各種放射線検査を行える体制を整えていますので、緊急検査にも迅速に対応いたします。

医療安全

医療事故・院内感染

ゼロをめざして

安全環境管理室長 中村 不二雄

■ 当院の特長

平成13年に病院長直属の安全環境管理室を開設。組織の垣根を越え、全院体制だからこそ可能な取り組みを積極的に行っています。また、ISO9001の「品質」視点で環境を改善し、着実に成果を挙げています。

「医療安全」「感染管理」「安全衛生」の3つ

を柱に、ワーキングメンバーが巡回パトロール（院内ラウンド）を行うことで、患者取り違えや薬剤の過剰投与・誤投与などのケアレスミスによる医療事故や院内感染の予防などに對する具体的な改善・是正指導を行っています。

■ 継続的な職員教育

事故防止のためには、環境の整備とともに職員教育が欠かせません。

重大事故につながるおそれがあった事例（インシデント）の報告を習慣化し、事故の未然防止に努めています。また、職員に安全意識を植え付け日々の医療現場で生かすため、全職員を対象に定期的に安全教育を行っています。出席できない場合はe-Learning（電子配信）での受講を義務付け、情報の周知・徹底をはかっています。万が一、問題が発生した場合は速やかに安全環境管理室に報告する体制を整え、詳細な検討を通じて原因を究明して再発防止のための対策を講じ、必要に応じて医療事故調査・支援センターに報告しています。



院内ラウンド



安全教育

地域完結型医療の

実現に向けて

患者サポートセンター長 田中 守嗣

■ 当院の特長

地域医療支援病院として地域医療に貢献するため、急性期医療のレベルアップをはかるとともに、関係機関と連携して医療の充実を目指し、地域完結型医療の推進に努めています。当院と医療圏内の3市1町（刈谷市、知立市、高浜市、東浦町）の医療機関は地域医療ネットワークシステム（KTメディネット）によりオンラインで結

■KTメディネットのネットワーク(イメージ)



ばれ、紹介元からの検査・診察などの予約や紹介患者を対象に「かかりつけ医」に当院の診療情報（診療・検査記録、画像情報など）を提供しています。さらに、引き継ぎ後の詳細な治療状況まで共有できるため、正確かつ迅速な医療連携が可能です。

■ 最近の取り組み

平成29年8月に電子カルテシステム・地域医療ネットワークシステムを全面更新いたしました。

■ 地域医療支援病院として

この地域で医療を完結させるためには、当院だけで皆さまを支えることはできません。そのため、地域の医療機関との「顔の見える連携」を推進し、切れ目のない医療の提供を目指しています。

また、地域全体の医療の質向上を目指して医療従事者向けに各種研修を行い、当院の知識・技術を共有していただく一方、当院もさまざまな情報を収集できるよう努めています。

「つなぐ医療」から「支える医療」へ、地域医療支援病院として地域完結型医療の推進に取り組んでいます。

入院患者さんを全力サポート！

入退院支援室

平成29年4月、入院・退院される患者さんの支援を専門とする「入退院支援室」を新設しました。患者さんが安心して入退院できるよう、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務員がそれぞれの専門性を生かして入院説明と退院支援を行っています。

入院説明では、医師から指示を受けた看護師をはじめとするスタッフがスムーズな入院生活に向けた説明をします。退院支援では、退院支援専任者が患者・家族の皆さまの意向を確認しながら院内外の多職種と連携し、退院後の在宅医療との架け橋となります。

設立して間もなく1年が経とうとしています。入退院患者さんの最高のサポーターになれるよう今後も邁進してまいります。



地域の皆さまの健康を守る

予防医療

健診センター長 中江康之

■ 当院健診センターの特長

女性専用エリアを設け、女性の方に安心して検査を受けていただける環境を整えています。また、待ち時間や移動距離を最小限に案内する健診アシストシステム・コンシエルジュを配置することにより、スムーズな健診受診をサポートします。

精密な医療機器を導入し、人間ドック・定期健診に加えて多彩なオプション検査をご用意しています。健診の結果、要検査となった方には二次検診や治療をご案内し、各部門と連携したフォロー体制も万全です。また、生活習慣改善のための保健指導・ライフスタイル指導なども充実していますので、ぜひご活用ください。



健やかな暮らしの礎に

皆さまの健康を守るためには、早期発見・早期治療が重要です。ご自身とご家族の健やかな暮らしのために、定期的な健診受診を心掛けてください。

職員教育

育て、医療のプロフェッショナル

教育委員長 伊藤 誠

■ 当院の特長

高度な知識と技能をもつて、患者・家族の皆さまの思いに答えられる医療従事者を育てるため、きめ細やかな育成制度を整備しております。また、年に一度は豊田会を挙げて研究発表会を行い、各部門の取り組みを共有しています。

研修医の育成には職種の壁を越え病院を挙げて取り組み、向上心を維持して効率よく学べる環境づくりに努めています。また、看護部門では段階的な教育を行いながら、病院と外部（看護協会や教育機関）の研修を



有効活用してレベルアップをはかっています。その他の医療技術職・事務部においても部門ごとに教育制度を整え、高度な医療に貢献できるよう努めています。

■ 最近の取り組み

医師の育成では、平成30年4月に始動する「新たな専門医養成の仕組み」に対応すべく準備を進めており、3年目以降の医師の育成にも力を入れています。

看護部では、看護の質向上を目指して「院内認定看護師制度」を新設しました。院内で専門分野の研修（講義・実習）を10カ月にわたって積んで特定の専門分野で高度な知識・技術・アセスメント能力を習得し、現場で質の高い看護を実践する看護師の育成に取り組んでいます。



(医)豊田会研究発表会



55th
Anniversary

特集

災害医療

万全の体制で臨む、災害医療

備えあれば憂いなし

救命救急センター
センター長

三浦政直

大規模災害に
対する「備え」
は、平成7年の
阪神淡路大震
災からその重要
性が叫ばれるよ
うになり、平成
23年の東日本大
震災が日本全体
を本気にさせ今



日に至っています。平成28年の熊本地震では、
多少の問題はあったものの全国からの災害支
援が円滑に行われ、「備え」のレベルが格段に
改善されたといっても過言ではありません。

災害が起こると、通常時をはるかに上回る多
数の患者さんが病院や救護所に駆け込むこと
が想定されます。災害医療のポイントは、多数
の患者さんをいかに適切な医療機関に分散さ
せるかということです。

刈谷市では、災害が生じると市によって5カ
所の救護所（避難所も兼ねる）が開設されます。
救護所には刈谷医師会の先生方が参集され、

症状の軽い傷病者の救急医療が行われます。

当院は愛知県から地域中核災害拠点病院の指定を受けているため、災害時は医療救護活動の拠点として救護所や2次救急病院などの円滑な連携をはかりながら**重症患者**を中心に受け入れます。また、

DMAATをはじめとする医療支援チームを統括し、重症患者の他県への移送なども同時に進めます。



平成28年からは、仮想患者を設定した市・医師会・当院の3者による救護所立ち上げ訓練を行っています。また、刈谷市以外の近隣市町村とも話し合いを重ね、西三河南部地域全体で助け合う仕組みの構築も進んでいます。

通常とは全く異なる災害医療を職員全体に浸透させるには、繰り返し訓練を行う以外に方法はありません。「備えあれば憂いなし」を胸に、当院では今後も毎年テーマを絞った総合防災訓練を継続し、災害時に多くの命を救えるよう取り組んでまいります。



総合防災訓練時の災害対策本部

災害が起こったら 当院の医療体制の変化

救急・集中治療部 医長 三輪 立夫

例えば、あなたが外来の待合でこの冊子を読んでいる時に災害が発生した場合、当院はどのような診療体制をとるのか、簡単にお話いたします。

災害発生直後

院内外を問わず治療を必要とする大勢の被災者が発生し、混乱が予想されます。災害拠点病院（地域中核災害医療センター）である当院は、通常診療で対応しきれない数の被災者を受け入れるため、災害対策本部を即座に立ち上げ、災害モードに診療体制をつくりかえます。



残された限りある医療資源や医療スタッフを集約して最大限の医療パフォーマンスを提供するため、まずは各診療科での外来診療をいったん停止します。外来を受診されている皆さん！まずはご自身の安全を確認してください。その後、職員が院外に避難誘導します。

院外で被災された皆さんもまずはご自身の安全を確認してください。災害時は交通手段の混乱も予想されます。けがをされた場合は、近くの救護所または当院にお越しください。診察券や保険証、お薬手帳があれば持参してください。

院内の安全を確認後

災害モードでの診療受け入れを開始します。混乱を避けるため入り口は救急外来北口のみとし、症状に応じて院内に設置された各救護所にて治療します。軽症例では簡易的処置が主となりますが、重症化のサインを常に見逃さず診療していきます。

年に一度は病院を挙げて総合防災訓練を行います。準備しすぎといわれるほど準備しています。が、発災時には大混乱が予想されます。ご迷惑をおかけすると思いますが、スタッフ一同、最大限の努力をいたしますのでご協力のほどよろしくお願いします。



救急外来北口

設備面での備え

設備管理グループ リーダー 林直樹

■医療の継続に欠かせない建物・設備への対策

全ての建物は耐震基準を満たしており、ベッドやワゴン車など揺れにより動く可能性のある設備はキャスターロック(写真1)を行い、病棟のスタッフステーション内にある



棚は転倒防止策(写真2)を施しています。

1・2棟および中央棟は免震構造(写真3)です。診療棟は耐震性能が高く、ある程度の補修が必要となる可能性があります。地震後も使用可能です。3・5・6棟は少々古いですが耐震補強を行っています。

院内に26基設置されているエレベーターは、地震が発生すると最寄りの階に自動停止して



写真1.キャスターロック



写真2.棚の転倒防止策



写真3.免震構造

扉が開き、閉じ込めを防止します。万が一、閉じ込めが発生した場合は、最寄り階との段差が少ないなど安易な状況では教育を受けた病院職員が救出を行い、職員が対応できない場合は専門業者が駆けつけます。

■災害医療活動エリアの確保

災害発生時は免震構造の中央棟3階に災害対策本部を設置し、各エリアと連携しながら診療にあたります。外来エリアには重症度別に救護所を設け、2棟1・2階は待合のいすをベッドに組み直し(写真4)、災害被災者待機エリアとします。

免震 揺れを逃がす



1・2棟、中央棟

地震後も無補修あるいは軽微な補修で使用を継続できます。

耐震 揺れに耐える



診療棟、3・5・6棟

人命確保はできますが大きな補修が必要だと想定されています。



写真4.災害被災者待機エリア

災害対策本部の機能



防災用カメラのモニターにて状況を把握(院内主要箇所)

■ライフライン・非常食の確保

電気は自家用非常用発電機(5基)により、備蓄している灯油を使って3日間は運転可能です。また、水は平成30年4月より井戸を整備して給水を二元化する予定ですので、通常供給が可能となります。非常食の備蓄は表のとおりです。

■非常食(朝・昼・夜)の備蓄

対象	内容
患者さん	550人分×3日間
職員	800人分×3日間
帰宅困難者	1,000人分×1日間

災害に備えて万全の体制を整えています。想定外の事態が発生することも考えられます。ご不便をおかけすることもあります。ご協力をよろしくお願いいたします。

BCP(事業継続計画)の策定

総務室総務グループ
リーダー

佐藤 智教

当院は、平成19年3月31日に災害拠点病院の指定を、平成23年4月1日には救命救急センターの指定を受けております。あらゆる不測の事態に遭遇しても患者さんを受け入れるという社会的使命を果たすために、病院機能の低下を最小限にして早急に復旧させられるよう日頃から備えておく必要があります。そのため、平成28年4月にBCP(事業継続計画)を策定しました。また同年8月には内容の検証を目的としたシミュレーション訓練を実施して、病院機能維持のための準備体制や方策を構築しました。

とはいえ、当院のBCPの取り組みはまだ始まったばかりです。今後も検討を重ね、BCPの質を向上させてまいります。



BCP訓練



災害現場へ急行！DMAT

夜間救急病棟 看護師長 井谷 由寛子

■DMATとは？

DMATとはDisaster Medical Assistance Teamの略であり、災害発生直後の急性期(概ね48時間以内)に活動が開始できる機動性を持った、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームのことです。

■熊本県での支援活動

2016年4月14日、熊本県で震度7の地震が発生し、その2日後に再び地震が発生しました。愛知県より招集がかかり、医師1名、看護師2名、調整員2名の5名で医療資機材や通信機器、食料、わずかな着替えを持って熊本県を目指しました。



熊本にて医療支援を行ったDMAT

そして、4月18日～21日までの4日間、熊本の災害拠点病院である熊本赤十字病院の救急外来で病院支援活動を行いました。

救急外来には1日に400人の患者さんが来院し、軽症から重症まで症状はさまざまでしたが、医師は初期診療、看護師はウォークイン患者のトリアージから診療の補助をメインに行い、12時間交替で支援しました。全国から日赤の救護班、DMATが集結していましたが、ホワイトボードに指揮命令系統が明確化されており、混乱なくスムーズな連携がはかれました。

支援に参加するという貴重な経験を通して、当院の仕組みや減災対策についても考えることができました。この経験を当院の災害対策にも生かしてまいります。

かきつばた会

在宅酸素療法を行っている患者の皆さまの親睦を深め、さまざまな知識を深めていく患者会です。

日時 平成30年5月19日(土)
午前10時～11時

主催 呼吸器・アレルギー内科

場所 診療棟5階 第3会議室

参加 無料(予約不要)

お問合せ 0566-25-8010 (内科外来)

お知らせ
伝言板

患者の会や教室、院内のイベントについてお知らせします。
都合により、内容は変更になる場合があります。

市民公開講座

知っておきたい脳腫瘍の最新治療

日時 平成30年3月3日(土)
午前10時30分～

講師 脳神経外科 部長 加藤 恭三

主催 広報委員会

場所 診療棟5階 第1・2会議室

参加 無料(予約不要)

お問合せ (0566) 25-9215(広報グループ)

世界一受けたい大腸がんセミナー

～早期発見でこんなに変わる これからのあなたの人生～

日時 平成30年6月16日(土) 午前10時30分～

講師 消化器・一般外科 部長 小林 建司

主催 広報委員会

院内コンサート

デンソー吹奏楽団コンサート

日時 平成30年5月19日(土)
午後2時30分～

演奏 デンソー吹奏楽団

主催 広報委員会

場所 診療棟2階

費用 無料(予約不要)

お問合せ (0566) 25-9215(広報グループ)

ピアノ&クラリネットコンサート

日時 平成30年6月16日(土)
午後2時30分～

演奏 Trioあくと

主催 広報委員会

水曜会

乳がんと診断された方の会です。
どなたでもご参加いただけます。

日時 平成30年3月14日(水)
午後2時～3時30分

主催 患者サポートセンター
(医療福祉相談グループ)

場所 診療棟5階 第4会議室

参加 無料(予約不要)

お問合せ (0566) 25-2810(患者サポートセンター(医療福祉))

パーキンソン病患者・家族の会

パーキンソン病患者・家族の皆さまの会です。
当院におかかりの方を対象としています。

社会福祉制度・福祉用具について

日時 平成30年3月19日(月) 午後2時～3時30分

講師 医療ソーシャルワーカー・福祉用具業者

主催 患者サポートセンター
(医療福祉相談グループ)

場所 診療棟5階 第4会議室

参加 無料(予約不要)

お問合せ (0566) 25-2810(患者サポートセンター(医療福祉))

肝臓病教室

医師によるおはなしと
管理栄養士による栄養指導

日時 平成30年5月9日(水)午後2時～3時

場所 診療棟5階 第5会議室

費用 栄養食事指導料

対象者 当院肝臓病患者・家族の皆さま

持ち物 筆記用具・診察券

栄養科の 教室 **完全予約制**

対象は当院で栄養指導を受けたことがある方です。
参加を希望される方は栄養科までご連絡ください。

☎ (0566) 25-8387〈直通〉
教室予約

ヘルシークッキング教室

平成30年4月 ▶ 季節感あふれる春色メニュー

日時 平成30年4月12日(木)・13日(金)
午前10時～12時30分

場所 5棟2階 調理実習室

費用 栄養食事指導料+材料費600円(税抜)

対象者 当院生活習慣病患者・家族の皆さま

持ち物 エプロン・筆記用具・診察券

平成30年5月 ▶ 腸が元気になる食事

日時 平成30年5月10日(木)・11日(金)
午前10時～12時30分

慢性腎臓病教室

医師によるおはなしと管理栄養士による栄養指導

日時 平成30年4月25日(水)
平成30年5月23日(水)
午後1時30分～3時

場所 診療棟5階 第5会議室

費用 栄養食事指導料

対象者 当院慢性腎臓病患者・家族の皆さま

持ち物 筆記用具・診察券

減塩食体験会

減塩食(昼食)の試食と
管理栄養士による栄養指導

日時 平成30年4月19日(木)・20日(金)
平成30年5月17日(木)・18日(金)
午前11時30分～午後1時

場所 5棟2階 調理実習室

費用 栄養食事指導料+材料費600円(税抜)

対象者 塩分制限を必要とする当院患者・家族の皆さま

持ち物 筆記用具・診察券

心臓病のための栄養セミナー[※]

管理栄養士による栄養指導と
ちょっとした減塩料理の試食会

日時 平成30年5月9日(水)
午前10時30分～12時

※5月の第1水曜日が休日のため第2水曜日に開催します。

場所 5棟2階 調理実習室

費用 栄養食事指導料

対象者 当院心臓病患者・家族の皆さま

持ち物 筆記用具・診察券

※栄養指導を受けたことがない方でも、医師の指示があれば
ご参加いただけます。

がん相談支援センター

がんに関する不安や疑問・療養生活における悩みなどのさまざまな相談に看護師や医療ソーシャルワーカーがお応えします。

相談対応日 月～金曜日、第1・3土曜日(休診日は除く)

受付時間 月～金曜日:午前9時～午後4時
第1・3土曜日:午前9時～午後1時

相談時間 30分程度

場 所 診療棟1階 患者サポートセンター

参 加 無料(予約不要)

がんに関する情報

がん診療拠点病院として、がん患者さんの支援を積極的に行っています。お気軽にお立ち寄りください。

●お問合せ
(0566) 25-8110(がん相談支援センター)

がんサロン

がんの治療中・療養中の患者さんやご家族の方々が集い、がんについての疑問や不安、悩みについて共に学び、語り合う場所です。

平成30年4月より
定期開催日と時間が
変更になります。

放射線検査の基礎知識

日時 平成30年3月13日(火)
午後2時30分～3時30分

講師 放射線技術科(診療放射線技師) 齋田 善也

場 所 診療棟4階 がん情報ラウンジ **参 加** 無料(予約不要)

緩和ケア外来とは?

日時 平成30年4月21日(土)
午前10時～11時

講師 がん総合診療センター(医師) 吉田 憲生

ピアサポーター(がん治療体験者)による院内相談会

がんに関する不安や疑問・療養生活における悩みなどのさまざまな相談にピアサポーターがお応えします。

日時 毎月第1木曜日(休診日は除く)
午前10時～12時

場 所 診療棟1階 正面玄関

参 加 無料(予約不要)

社会保険労務士によるがん患者さん相談会

治療と仕事の両立や就労の不安・悩みなどに社会保険労務士がお応えします。

日時 毎月第1木曜日(休診日は除く)
午前10時～12時

場 所 診療棟1階 正面玄関

参 加 無料(要予約)

※原則予約制としますが、予約枠に空きがあれば当日受付も可能です。

予約方法 0566-25-8110(がん相談支援センター)まで電話またはがん相談支援センター窓口までお越しください。



(文責:総務室長)

快適な環境で治療に専念していただけるよう、付設されている花壇の手入れを行い、デザインなどを見直しました。

1棟12階の北側個室にある花壇の草木が枯れ、倒れたままになっているとのご意見を

ご意見箱



貴重なご意見を頂戴し
ありがとうございました。
今後も皆さまにご満足いただけるよう、
職員一同努力してまいります。

広報誌 「医心伝心」の歩み

■かかりつけ医を持ちましょう

当院は、地域医療連携を推進しています。当院を受診される場合は、かかりつけ医からの紹介と予約が必要です。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

[紹介状持参のお願い]

当院の外来診療は紹介型専門外来です。初診の方は、地域診療所からの紹介状(診療情報提供書)を必ずお持ちください。紹介状なしで受診された場合、初診時の選定療養費 5,000 円(税抜)がかかり、待ち時間が長くなりますのであらかじめご了承ください。

[救急外来について]

当院の救急外来は、重症度の高い患者さんを優先に診療いたします。円滑な救急医療を行うため、なるべくかかりつけ医か休日診療所、在宅当番医を受診してください。必要に応じて当院にご紹介いただくシステムになっています。

■予約変更専用窓口について

予約の変更・確認は、予約変更専用窓口で承ります。ただし、歯科口腔外科の場合は歯科口腔外科外来までご連絡ください。

[予約変更専用窓口] 0566-25-8103

[歯科口腔外科外来] 0566-25-8020

患者さん向け広報誌「医心伝心」は発行から25年以上が経過し、今号で155号となりました。病院の成長とともに変化を遂げてきた「医心伝心」の歩みをご紹介します。

これからも患者・家族の皆さまにご愛読いただける広報誌を目指してまいります。



創刊号(平成4年7月)
「刈谷総合病院だより」という名称で、診察の待ち時間の読み物として創刊。表紙には病院長の似顔絵が描かれていました。

21号 (平成7年11月)



B5サイズからA4サイズに拡張。

62号 (平成14年9月)



広報誌名を「医心伝心」に変更し、デザインもリニューアル。

83号 (平成18年4月)



病院名が「刈谷豊田総合病院」となり、表紙・裏表紙をカラーに変更。

112号 (平成23年1月)



表紙デザインを季節感がある写真に変更。

125号 (平成25年3月)



開院50周年記念特集号。50年の歩みと新たな取り組みを紹介。

144号 (平成28年5月)



現在のデザインにリニューアル。目玉となる特集の第1号は「糖尿病」。

余聞

携帯電話やデジタルカメラで撮影した写真を厳選して、玄関やリビング、デスクに飾るようにしています。日々の生活の中で飾った写真が目に入ると、当時を懐かしみ、幸せを感じて笑顔になります。デジタル化で便利になり、写真もプリントせずにデータで保存したままという方も多いと聞きます。記念日や食事会、何気ない日常の写真などを飾ってみませんか。カメラやパソコンの画面では伝わらない、温かさを感じられるかもしれません。

旬を食す Season's Cooking

| 今回のお料理 | 春食材の手まり寿司

今回は、タケノコや鰹、鯛を使った手まり寿司をご紹介します。

タケノコは3月～6月に旬を迎えます。食物繊維が豊富で、便秘や大腸がんなどの予防に効果があるといわれています。

鰹の旬は1年に2度あり、3月～5月(上り鰹)と9月～10月(戻り鰹)です。鰹には脳の働きを活性化するDHAや血液をサラサラにするEPA、肝機能を高めるタウリンも豊富に含まれています。また、かつお節は縁起物として結婚式の引出物や端午の節句などで用いられます。

鯛は低脂肪・高たんぱくで豊富なアミノ酸を含み、養殖物も多く出回っているため1年を通して漁獲があります。古くから縁起のいい魚とされ、祝い事には欠かせない存在です。

管理栄養士 石橋 龍志

作り方

- ① ご飯は少なめの水(炊飯器の目盛りの1mm下ぐらい)で炊く。
- ② ご飯が炊けたら、冷ましながらAと混ぜ合わせて酢飯を作る。
- ③ タケノコは穂先3cmほどを飾り付け用に薄切りにし、残りは長さ1cmの細切りにする。
- ④ 鍋に③で細切りにしたタケノコとBを入れ、沸騰したら弱火で15分煮詰めて冷ます。
- ⑤ 絹さやは、筋をとって沸騰したお湯でさっと茹で、冷ましてから1mm幅に斜め切りにする。
- ⑥ 鰹と鯛は薄切りにする。
- ⑦ 酢飯と④を混ぜ合わせる。
- ⑧ ラップの中央に③の飾り付け用タケノコや⑥の切り身をそれぞれ置き、その上に⑦を40gほどのせてラップで丸めて形を整え、取り出す。
- ⑨ タケノコの上に絹さやを飾る。
- ⑩ 皿に手まり寿司をのせて盛り付ける。

☆お好みで、しょうがやゴマ、わさびなどと一緒にご召し上がってください。

1人分
283kcal
塩分0.71g
(付け醤油は含まず)



材料(1人分)

ご飯	120g
酢	10g (小さじ2)
A 砂糖	10g (小さじ3強)
塩	0.4g
タケノコ	50g
だし汁	50ml
酒	10g (小さじ2)
B 砂糖	6g (小さじ2)
醤油	6g (小さじ1)
絹さや	2g (1枚)
鰹	30g
鯛	30g



日本医療機能評価機構の認定を受けています



卒後臨床研修評価機構の認定を受けています

ISO 9001:平成18年2月に認証取得

ISO14001:平成12年2月に認証取得

平成19年2月に自己宣言に移行

ISO15189:平成22年11月に認証取得

刈谷豊田総合病院

検索

<http://www.toyota-kai.or.jp/>

バックナンバーは当院ホームページにてご覧いただけます

